

第 1 回（平成 19 年度）IODP 部会・執行部会 議事録

日時：2007 年 4 月 20 日（金） PM14：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席予定者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学） 阿波根直一（北海道大学） 安間了（筑波大学）
池原実（高知大学海洋コア総合研究センター） 井上麻夕里（東京大学海洋研究所）
小平秀一（海洋研究開発機構） 高澤栄一（新潟大学） 日野亮太（東北大学） 松本剛（琉球大学）
山崎俊嗣（産業技術総合研究所） 山本啓之（海洋研究開発機構）

オブザーバー：

文部科学省海洋地球課：宿利一弥 杉山真人
海洋研究開発機構国際課：花田晶公 笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX：川村善久 木戸ゆかり
事務局：山田 泰 加賀谷一茶 梅津慶太

欠席予定者（敬称略）

執行部：荒井晃作（産業技術総合研究所） 北村晃寿（静岡大学） 坂本竜彦（海洋研究開発機構） 山田泰広（京都大学）

議事次第

1. J-DESC・IODP の仕組みと仕事のアウトライン [阿波根部会長補佐／荒井委員]
2. JAMSTEC の IODP 国内推進支援について [海洋研究開発機構 国際課]
3. J-DESC・AESTO・IODP 事務手続きの説明 [事務局]
4. 今後の方針 [川幡部会長]
5. 第 2 期のアンケート結果 [阿波根部会長補佐／荒井委員]
6. IODP 活動に対する要望(箇条書き)などの洗い出しと整理 [川幡部会長]
7. 今後の活動
8. 役割分担
 - ・各専門部会_担当者
 - ・会員提案型活動経費選考委員会_委員選出
9. その他
 - ・その他報告事項
 - ・次回執行部会開催日程

配布資料

資料 1-1	J-DESC 組織図・SAS 組織図	資料 5	IODP 活動に対する要望／活動課題
資料 1-2	J-DESC・IODP 部会規則	資料 6-1	H19 年度 IODP 部会 業務分掌について
資料 1-3	IODP における我が国の科学戦略 - 研究支援体制の確立に向けて -		執行部委員の役割
資料 2	J-DESC & AESTO 覚書／AESTO 支援業務	資料 6-2	H19 年度会員提案型活動経費選考委員会
資料 3	今後の方針	追加資料	J-DESC H19 年度予算案
資料 4-1 (1)	第 2 期乗船研究者アンケート結果		執行部会メモ
資料 4-1 (2)	〃 (対象：co-chief)		JAMSTEC の IODP 支援について
資料 4-1 (3)	〃 問題点まとめ	別添資料 1	SAS Panel ローテーション表
	J-DESC に対する提言	別添資料 2	PMO 会議メンバー
資料 4[参考 1]	co-chief Manual	別添資料 3	NIKKO Management Forum 報告書
資料 4[参考 2]	乗船研究者 Hand Book	別添資料 4	Proposal List
資料 4[参考 3]	IODP 乗船研究者リスト	参考資料 1	IODP 略語集
		参考資料 2	コア解析スクール参加者概要

本委員会資料の通し番号（暫定案）

※[IS07***]が通し番号になります。（IS=j-sikkou, 07=年度, ***=番号が入ります。）

資料 1-1	[IS07001]	J-DESC 組織図・SAS 組織図
資料 1-2	[IS07002]	J-DESC・IODP 部会規則
資料 1-3	[IS07003]	IODP における我が国の科学戦略 (2) -研究支援体制の確立に向けて-
資料 2	[IS07004]	J-DESC & AESTO 覚書
	[IS07005]	AESTO 支援業務
資料 3	[IS07006]	今後の方針
資料 4-1 (1)	[IS07007]	第 2 期乗船研究者アンケート結果
資料 4-1 (2)	[IS07008]	“ 対象 : co-chief)
資料 4-1 (3)	[IS07009]	“ 問題点まとめ ppt ver.
	[IS07010]	“ 問題点まとめ word ver.
	[IS07011]	J-DESC に対する提言 (4-1 (3) への対応)
資料 4[参考 1]	[IS07012]	co-chief Manual
資料 4[参考 2]	[IS07013]	研究者 Hand Book
資料 4[参考 3]	[IS07014]	IODP 日本人乗船研究者リスト
資料 5	[IS07015]	IODP 活動に対する要望/活動課題
資料 6-1	[IS07016]	H19 年度 IODP 部会 業務分掌について
	[IS07017]	執行部委員の役割
資料 6-2	[IS07018]	H19 年度会員提案型活動経費選考委員会
追加資料	[IS07019]	J-DESC H19 年度予算案
	[IS07020]	執行部会メモ
	[IS07021]	JAMSTEC の IODP 支援について
別添資料 1	[IS07022]	SAS Panel ローテーション表
別添資料 2	[IS07023]	PMO 会議メンバー
別添資料 3	[IS07024]	NIKKO Management Forum 報告書
別添資料 4	[IS07025]	Proposal List
参考資料 1	[IS07026]	IODP 略語集
参考資料 2	[IS07027]	コア解析スクール参加者概要

議事録

執行部委員・オブザーバーの自己紹介がなされた。

事務局より資料の確認・説明がなされた。

川幡部会長より配布資料「執行部会メモ」について説明がなされた。

- ・ 委員会のポリシー（議論が混乱した場合、ポリシーに合っているかを考えて議論する）
 - 1) 地球科学の発展のための掘削科学の促進
 - 2) 地球科学 community（特に日本地球掘削科学コンソーシアム加盟機関および所属人員）の満足
 - 3) 客観的に立った議論
- ・ 呼称は「様」に統一

1. J-DESC・IODP の仕組みと仕事のアウトライン(阿波根部会長補佐)

J-DESC の体制 (IODP 部会；幹事会；執行部；各専門部会・WG) の概要、および、IODP 執行部の役割 (国際・国内対応)、課題、早急にきめるべき担当係について説明がなされた。

(質疑応答)

川幡：安定した財源の確保について、科学振興費 RR で IODP を支援することは難しいでしょうか？

宿利：特定のテーマにスポットを当てて支援するのは難しい。

川幡：安定した財源の確保ということで、来年度から使えるようにできるか検討していただきたい。科研費はみんなに満遍なく参加してもらうためのお金としては向かないところも少しある。RR ならば、ある特定の目的で多くの人が参加できる可能性があるかもしれないと思います。

宿利：調べさせていただきます。

川幡部会長より、執行部・専門部会の人選について説明がなされた。

- 現在国際対応と国内対応が分離している、執行部の人選
 - SASEC：川幡部会長（2008 年より）
 - SPC：山本委員
 - SSEP：安間委員，高沢委員
 - IIS-PPG：山田委員
 - STP：池原委員，阿波根委員
- 科学推進、事前調査専門部会について、国内と国際の対応がうまくなされていないという指摘が多い（資料5「宿題まとめ」より）

(質疑応答・コメント)

川幡：専門部会の部会長はどのようにきめますか？

阿波根：現在の部会長が後任を推薦し、執行部会で承認する。ただし専門部会によっては後任が見つからないので公募でやってくれという要望はあります。

川幡：執行部会から推薦することは可能ですか？

山本：実際には執行部会でこの人はどうでしょう？と推薦します。

阿波根：執行部が交渉・調整を行う必要があります

2. JAMSTEC の IODP 国内推進支援について(海洋研究開発機構 国際課)

花田国際課長から標記の件について説明がなされた。

配布資料「JAMSTEC の IODP 国内科学推進支援について」

- 中期計画に基づき、IO として IODP の科学研究推進を行っている。その一方で、研究面については J-DESC の一会員として存在し、関連研究を推進している。
- 日本として IODP を進めていく上で、JAMSTEC が IODP 総合推進機関として、MEXT から運営交付金をもらい、AESTO に業務委託を通じて、国内科学研究推進を行っている。
- AESTO への委託業務は、IODP 国内科学計画の策定支援、IODP 国際科学委員会にかかわる活動支援、IODP 乗船研究の支援、IODP 計画の総合推進に関わる支援等。
- AESTO に委託している業務の中に J-DESC という文言はないため、国内科学計画の策定には J-DESC からの働きかけが必要。
- JAMSTEC の委託業務と J-DESC の活動がミラー構造になっている（表裏の関係）。
- 時限付き科研費細目「地球システム変動（平成 19、20 年度）」への応募を積極的に行って欲しい。

（質疑応答・コメント）

川幡：科研費の新たな細目については、J-DESC として E メールなどで積極的に宣伝を行っていきたいと思います。

お金に関するリクエストも私の立場上しなければならぬことが出てきますので、大変かもしれませんが、2 年間よろしく願います。

花田：出来ることはさせていただきますし、なかなか難しいことも出てくるかとは思いますが、良くご相談させて頂きながら対応していきたいと思えます。

川幡：小泉委員会（国内科学計画委員会）は JAMSTEC と AESTO の間で、このようにしていけば良いのではないかという提案や監視をする役割と考えて頂いてよろしいかと思います。末廣理事が小泉委員会にこられた折、リクエストがあれば言ってくださいと言ったのは事実ですよ？ですから私たちとしても、自己規制をしないで、なるべくお願いを出すという方向でいきたいと思えます。また、産総研と JAMSTEC からは 2 人ずつ組織として執行部に人を出してくださいとお願いしています。

3. J-DESC・AESTO・IODP 事務手続きの説明(事務局)

事務局から IODP 国内科学支援における AESTO の役割および標記の件について説明がなされた。

- AESTO の科学掘削推進部が J-DESC 活動（各種委員会、執行部会、専門部会、WG）の運営、IODP 国際科学委員会に関わる活動支援、乗船研究者への支援、掘削プロポーザル策定支援、広報活動などを行っている。

（質疑応答・コメント）

川幡：JAMSTEC から AESTO への委託費から、IODP 関連直接経費として J-DESC に支援していただいています。

J-DESC の法人化については、現在割り当てられているこの直接費を失う可能性があるため、少し待ってもらい、実質活動に時間を費やしたいと思えます。

小平：JAMSTEC から AESTO への委託費総額のうち、直接費を除いた経費はどうなっていますか？

加賀谷：人工費、IODP と ICDP の共通費（事務局職員の出張費・消耗品・会議開催運営費）などです。

川幡：人件費、直接費、ICDP 支援と、業務・一般管理費と消費税ですね。JAMSTEC からこのように大きな金額を支援していただいていることに関して感謝しています。

松本：人件費というのは固定した人件費ですか？この業務のためのものですか？

山田：この業務のための人件費です。今この場に 3 人いますが、他に 2 名おり、もう 1 名追加の予定です。

4. 今後の方針（川幡部会長）

川幡部会長より資料 3 に基づき今後の方針について説明がなされた。

- システム化：10 年以上やっていくためにマニュアル化する。委員に人材ストック（若い世代もふくめて）。

- 会員機関への利益の還元：現在、会員でもそうでなくても乗船できるなど、会員になるメリットがないという声がある。お金が無いなりにも何らかの差別化をしたい。
- 連携強化：国際委員会と国内委員会の対応を戦略的に組織化。国際パネルでの事が国内に通じていない問題がある。プロポーザルを厳選し、日本としてプロポーザルを上げていく。事前調査の情報を組織的に共有できるようにする（組織や人を紹介するなど）。
- この委員会は2年間で終わる（1年5ヶ月でルーチン化、残り半年で確認）。
- お金がなくてもできることからやる。

5. 第2期のアンケート結果(阿波根部会長補佐)

阿波根部会長補佐より資料4-1(3)に基づき、標記の件について説明がなされた。

- 乗船研究に関わる問題点を明らかにしたいとの意向でアンケートを行った。
- あえて問題点がわかりやすくなるように、クレームが出易いと想定される項目をアンケートにしている。
- 乗船者旅費の支給について、途中から旅費支給の担当窓口が変わったこともあり、途中現場が混乱したが、現在の窓口は AESTO に一本化している。

(質疑応答・コメント)

川幡：サンプリングのための旅費が支給されていないとの記載がありましたが、現在は支給されています。相談窓口がどこにあるか分からないと困るので、事務処理の窓口として AESTO の増田さんなど、そして科学的な面として執行部から一人出して、次の5月か6月の執行部会の際に正式にこの人ですと出してもらう。出張の事務処理に関してはマニュアル化していますか？

加賀谷：出張の前にメールで簡単な説明をしています。

川幡：乗船する人へのような項目として、通常の80%以上の人が関連する事務手続きに関してマニュアル化されているといいかなと思います。

加賀谷：分かりました。準備します。

川幡：仕事の内容、サンプリングと共同研究の進め方、下船後の研究義務についての乗船研究者のための解説書が無いのではないかと問われていましたが？

阿波根：そうですね。乗船研究者ハンドブックというものが、内容を少しずつ改定はしていますが、こういう目的に絞ったものではないです。どちらかというところまでの乗船研究者の経験集です。

川幡：ハンドブックは分かりにくいなどの声がありますので、乗船研究者用と Co-Chief 用に分けて、MSP、ちきゅう、ジョイデスのマニュアルを作る。特に乗船研究者用は（固体地球科学と環境系とで）分野別で作る。ちきゅうに関しては、川村さんが作りますと伺っています。その4通りから5通りを早急で作って HP に乗せればよいと思います。Co-Chief 用の作り方に関しては、Co-Chief 用のハンドブックに書き加えていく形で作成していくということで。海野さんは協力して頂ける一方で、井龍さんは忙しいので AESTO の人来てくださいとのことでした。未熟な学生に対する指導体制の確保に関しては将来的にやって頂く。航海に関連する希望者に対して、テクニックや義務を教える事前研修の参加への旅費支援を委託経費の中から将来出して頂くことは可能ですか？

花田：今この場で判断するのは難しいです。

川幡：その辺を今後ご検討ください。

日野：航海への応募に関してのアンケートで、自分から積極的に調べたという25%の人はどのような階層の人ですか？

阿波根：主に大学の教員、ポスドクなどです。若い学生などは教官に言われて乗ったなどが多いと思います。

日野：学生が教員の意向を無視して自分から調べて乗ってくるというのは、もともと期待値は高くない。教員の人

にある程度情報が伝わっているのは今でも悪い状況ではない。という見方はありますよね。すでに乗船した人からの生の声、例えばQ&AなどがJ-DESCのHPにあるといい(マニュアルとはちょっと違うが役に立つ)。学生・院生の乗船研究者が今後増えていくため、教員に指導を全て任せることは不可能になるはずなので、J-DESCで乗船者スキルのスタンダードを確立するための体制強化が必要だと思います。

川幡：乗船枠を100%埋めなければならないかどうかは決まっていないが、人数あわせて載せている部分もある。80%を埋めようというような決まりをある程度作ってマニュアル化すれば、レベルが云々という問題に対応できるのではないのでしょうか。

日野：乗る人にとっても、サポートを受けてから乗船すればいい刺激になって将来リーダーになれるかもしれない。ある程度まだしばらくどたばた状態が続く可能性が高い。コアの記載などの基礎レベルをそろえるような教育が出来るものがあると若い人にとってプラスに働くのかなと思います。

木戸：乗船者の義務として、キャンペーンなどで体験談を話してもらうということを検討しており、一昨年から乗船者に話をしてもらう機会を設けました。それプラスwebサイトに載せられるようなQ&Aがあればよいと思います。

川幡：話をして頂いた人のリストはありますか？

木戸：あります。

山本：アンケートをHPに掲載する件はどうになりましたか？

加賀谷：アンケートに個人名や特定のクルーズ名が残っていたので、まだ載せていなかったのですが、今日の資料にあるものをJ-DESCのHPに公開するつもりです。

川幡：皆さまから集めた要望集などの資料中で、旅費が出ないなどと記述されている部分については、今の手続き上で間違っていることを修正してください。

加賀谷：今年度から始めて乗船研究支援を行うので、純粋に間違っていることが書いてあるわけではないと思います。

阿波根：すでに改善されている点には但し書きを加えて公開すればよいのではないのでしょうか。

川幡：CDEXさんとAESTOさんで確認して、この点については現在改善されていますというようなことを書いてください。

松本：ODPの時は、事務局のほうからいつまでにここに来なさいとか、指定ホテルの手配、ビザの手配など問題は無かったのですが、今の体制はどうなっていますか？

加賀谷：IOが3つに分かれており、それぞれIOから個人に連絡が来ることになっているので、情報の一本化がなされていません。

川幡：どこかにそういう情報が書いてあればわかりませんが、そうではないのは問題です。

6. IODP活動に対する要望(箇条書き)などの洗い出しと整理(川幡部会長)

各執行部メンバーから短期・長期での改善すべきところについて聞き取りがなされた。

山本：若い人を育てることを考えないと厳しくなる(長期)。国際パネル委員会に年の行った人と若い人がペアで来て、若い人を教育している。短期・中期ともに、人を育てる事に労力を割くことが必要。マニュアルを作ることを短期課題として急ぐべき。

山崎：私が提案のプロポーザルについて、支援を受けたという意識はあまりないが、役に立ったのは、Preプロポーザルを出したときに、SSEPにalternateとして出席したことで、どのようなプロポーザルがよいものかを学ぶことができた。(川幡：alternateで人材を出すのは短期でお金がかからなくて良い)

阿波根：プロポーザルの育成・支援が課題。乗船に関する問い合わせ窓口は短期で改善可。PMO会議では各国のプロポーザルの状況が必ず出てくる。雰囲気として日本がeven partnerとしての役割を果たしていないという

プレッシャーを感じる。日本からのプロポーザルをうまくサポートしていく体制が必要。(川幡：サイトサーベイの情報が回らないのが問題)(山本：それは日本だけの問題ではない)(日野：事前調査のリソースの参照先が分かるようにしなければならないということを事前調査専門部会で今検討中)(小平：プロポーザルを強いものとするための事前調査について、どのタイミングでどういうデータを取るかなども国内の事前調査部会でプロポーネントに助言するような体制を作らなければならない)(川幡：事前調査の情報を共有していけるように検討しましょう)

池原：J-DESC のやっている事が意思決定している人たちでないとわからない。自分からアクセスしないとわからない。昔はこうだったが今はこうだとか、アクションがわかるような形で公開するべき。若手の支援に関して、高知のコアスクールなど(参考資料2：これまで計5回開催、132名参加)、実際乗る人向けのスクールが必要ではないか。現状では直接IODPに参加する人に結びついておらず、その導入部分としての役割がある。テクニックを持っていない人へのスクールを組織的にやるべき。(川幡：会員機関ではない人はコアスクールには何人来るか?)(池原：調べてないですが、だいたい2~3割)

安間：マニュアルの整備が課題。地質学会が中心になって海洋底調査の基本(大学3年生以上向け；事前調査、コアの扱い方、非破壊・破壊計測、船上での対応マニュアル)を編集中なので、それを見ればある程度のスキルは身につくのではないかと思います。(川幡：乗船者ハンドブックの作成をお願いしたいと思います。手始めにテンプレートとして固体地球科学分野向けに作ってください)

松本：人数が増えたら質が下がったと云う困った状態になってしまった。大学院生のモチベーションを上げていくため、学部の頃から掘削航海経験者の先生による授業の中で掘削科学の魅力を説くようにしてはどうか(長期)。アウトリーチ、若手の乗船者に語ってもらうことを全国に拡大する(短期)。

小平：プロポーザルを作っていくうえでの *geophysical framework* や *site characterization* をどのようにオールジャパン的にやっていくかを確立することが課題の一つ。事前調査部会のミッションとしてプロポーネントやプロポーネントにこれからなるであろうという人に地球物理学的のデータが誰にコンタクトすれば取れるかを教えることがある。事前調査部会の中のシステムを整備することが必要(短期)。地質・地球化学の人たちと一緒に研究する地球物理学研究者の育成が必要(長期)。

日野：事前調査のノウハウを確立する(短期)。環境系のプロポーザルを書いている人たちが事前調査のことを少しでも知っていればもっと良くなる。プロポーザル作成支援をやっていることを強く宣伝するのが必要。部会同士でどのようなプロポーザルが出ているかなどの情報交換。部会活動をプロポーザル育成に活用したい。

川幡：今のところ意見で短期的に現実的なのは *alternate* で経験してもらうことですね。プロポーネントになっていて *SSEP* などに行った事がない人のリストを作って、*alternate* で出てもらうなど。

高澤：地方大学から見た目として、IODPは限られた人たちだけでやっているイメージがあるため、大学院生・学生に浸透していない。大学院生自体の確保が難しい(財政・将来的な問題)ため、キャリアパスなどIODPが夢や魅力を与えてくれるものにすべき(長期)。専門職的なイメージが強いため、分野を超えた研究である雰囲気や魅力を宣伝する(短期)。

井上：魅力がわからない。HPで一般の人が見たときにも分かりやすいようにPRすべき。コアセンターで高度な機器が動いていることをアピール。コアスクールで配られたようなレクチャーノートをpdfファイルにして配布する・ダウンロードできるようにすると良い。

引き続き別添資料4、Proposal Listについて川幡部会長より説明がなされた。

2007/4/1 時点で全33プロポーザルが新たに提出され、そのうち日本からは10件。

(質疑応答・コメント)

木戸：リストにある相模湾のプロポーザルについて、昨年度のプロポーザル作成支援課題に採択され、3回ワークショップを開催した。ワークショップ後半ではいいプロポーザルの書き方についてレクチャーを開き、今回

Full から CDP にしてはどうかという提案をもらったということで、プロポーザル作成支援が役に立った。また、人材育成について、アジア系の人にも掘削の魅力など IODP を宣伝し、J-DESC がアジアをリードして欲しい。

安間：スタッフサイエンティストはどのようにして決まるのですか？

川幡：正確に言うと、国内では、テキサスで言うスタッフサイエンティストはおらず、実際の日本現状では、オペレーションの業務が非常に重く、オペレーションサイエンティストに近いというのが客観的な認識です。

安間：Co-Chief のように募集するようになるのですか？

笹山：スタッフサイエンティストは基本的には IO の職員として乗船研究者の支援をするので、CDEX で採用します。

安間：執行部で議論することではないのですか？

川幡：オペレーションサイエンティストに近い業務になっています。スタッフサイエンティストをどう選ぶかということになれば、そのうち公募になると思います。

安間：ということはテキサスでやっているスタッフサイエンティスト業務の一部を「ちきゅう」では Co-Chief がやるということですか？

松本：CDEX ではテキサスで言うスタッフサイエンティストを育てるという計画があるのか、オペレーションサイエンティストのままで良いのかどう考えていますか？

笹山：TAMU がやっているようなサービスができるスタッフサイエンティストを育てるということです。

松本：育成のプログラムを作るということですか？

川幡：現状のままでは非常に難しいのではないかと危惧しています。

安間：船上研究でバックボーンになるのは、スタッフサイエンティストでその人の良し悪しが関わってくる場合があります。人材の確保についてはどうでしょうか？

川幡：日本の IODP の中長期の課題として話し合っていけばよいと思います。

7. 今後の活動

● 今年度の予算案

IODP 部会の今年度予算について川幡部会長および事務局より説明がなされた。

- ・ IODP 部会・執行部会活動経費（旅費）を試算すると合計約 260 万円になってしまう。
- ・ 執行部会の旅費について、基本的には旅費を出すか、各自工面できる場合はよろしくお願ひしたい。
- ・ どうしても足りなくなった場合、広報活動費を削る方針としたい。

8. 役割分担

● 各専門部会_担当者

各役割分担について暫定的な分担を行った（最終決定は次回）。

- ・ 全体：川幡穂高，井上麻夕里
- ・ プロポーザルの育成：山崎俊嗣
- ・ 乗船研究者の推薦：小平秀一，荒井晃作
- ・ アウトリーチ（キャンペーンなど）：安間 了，山本啓之
- ・ 裾野を広げること（若い人の育成など）：池原 実，坂本竜彦
- ・ JAMSTEC への（あるいは文科省への）お金の要求：JAMSTEC，松本 剛，川幡穂高
- ・ 学会への働きかけ：北村晃寿
- ・ 研究成果の回収とまとめ+成果報告会も含む：高澤栄一
- ・ 国際対応：阿波根直一

- ・ 外国の広報：松本 剛
- ・ 国際交流・渉外：阿波根直一，川幡穂高
((専門部会担当))
- ・ 科学推進専門部会 (乗船者+提案書改訂)：山崎俊嗣+X+X
- ・ 事前調査検討専門部会：日野亮太，小平秀一
- ・ 科学計測専門部会：池原 実
- ・ 環境保護安全専門部会：山田泰広
- ・ 技術開発推進専門部会：山田泰広
- ・ 孔内計測 WG：日野亮太
- ・ 情報システム WG：坂本竜彦
- ・ 非破壊計測 WG：坂本竜彦

- 会員提案型活動経費選考委員会_委員選出

5月半ばくらいから応募開始なのでそれまでに決めて頂きたい旨，事務局より説明がなされた。
次回までに部会から2名もしくは3名選出予定。

9. その他

- その他報告事項

事務局：IODP 掘削プロポーザル支援課題に関して今年度から CDP を撤廃しました。5月18日まで募集中ですの
で，皆様の関係者の方に宣伝していただきたいと思います。

- 次回執行部会開催日程

連休明けの次の週またはその次の週